

次期国立大学法人宮城教育大学学長候補者の選考について

令和5年11月29日

国立大学法人宮城教育大学学長選考・監察会議

【次期学長候補者を選考するにあたり本学の置かれている状況】

宮城教育大学は、その基盤とする東北地方において全国に先行する少子化、学校数減により入学者数や教員需要の減退が予想される。また、全国的に今後の高等教育全体の適正な規模を視野に入れた地域における質の高い高等教育へのアクセス確保の在り方や国公私の設置者別や機関別等の役割分担の在り方の明確化等が国において議論されており、他の国立大学においては様々な経営、教育研究改革が進められている。

このような大学の経営、教育研究の基盤を揺るがす厳しい環境の変化において、本学は教員養成大学としての意義役割を明確に発揮して、適切な経営マネジメントの実施と教育研究の発展に務めていくことにより、東北地方を中心とした国民や教育関係者の期待に応え、貢献していくことが望まれる。

このためには、第3期中期計画後期における諸改革、改変の成果が現出していることを継続、発展させ、令和6年度以降において、第4期中期計画で掲げるビジョンや各取組について、目標達成、成果をあげていく必要がある。

上記のような本学の現況と第4期中期計画後半以降の本学の経営、教育研究の課題と展望を念頭に、本会議では、「国立大学法人宮城教育大学学長選考基準」（令和5年7月6日）に掲げた本学の学長として求める資質・能力を有し、大学ガバナンス、経営マネジメントによる資金、人員の資源確保と配分、施設マネジメント、教員養成の教育研究、教育研究成果による地域の学校教育の創造や課題解決や人材育成・確保への貢献、他大学や教育委員会との折衝等による新たな養成研修体制の整備、附属学校の運営等について、必要な体制を整備して効果的な取組を進め、成果を挙げていくことを主導できる者の選考を行った。

【次期学長候補者の選考について】

各候補者の提示した書類の審査や抱負の聴取、本会議における面談、学内の意向聴取を行い、これらすべてを参考にしつつもいずれかの結果に偏ることなく、本会議として、それぞれから得られた情報や判断等を踏まえて、上記の各観点や要素からの資質・能力、期待できるものを総合的に判断した結果、次期学長候補者として松岡 尚敏 氏が適任とした。

【選考に際して参考とした資料等の取扱いについて】

意向聴取結果をはじめとして、選考に際して行った各方法において得た情報、判断等は総合的な審議、判断の過程のものであるため、逐一については公表しないものとする。